

巻頭言

東北支所の起承転結



IWAMURA Shokichi

動物衛生研究調整監（東北支所） 岩村 祥吉

青

森県七戸町にある東北支所がこれまでの82年という長い歴史を平成24年度末に閉じることになりました。

東北支所は、大正末期から昭和初頭にかけて猛威をふるい甚大な被害を与えた馬伝染性流産（馬パラチフス）の防遏を目的として、馬産地であった七戸町からの熱心な要請に加え、土地の多くを町から、さらに庁舎を地元の篤志家から寄付いただき、昭和5年に獣疫調査所七戸支所として現在地に設置されました。本体は時代と共に家畜衛生試験場、動物衛生研究所と名称が変更され、支所名も東北支場、七戸研究施設、東北支所と変遷していますが、地元では現在も設置時の「獣疫」の名称で親しまれ、かつては小学生の写生の授業が行われたこともあったと伺っています。

80年以上にわたり七戸に拠点を置き、数多くの研究成果を挙げています。創設から昭和30年代では、予防液と免疫血清による馬パラチフスの撲滅のほか、反芻獣のリステリア症について感染経路を立証するなど基礎的な成果もあります。また、放牧が国策として推進された昭和40年以降には、小型ピロプラズマ病の治療試験や発病要因の解明、放牧牛の行動パターンなどと放牧中の疾病発生との関連性、放牧育成牛における繁殖障害の原因解明とその対策など放牧衛生における成果のほか、グラム陰性菌感染症の病理学的研究、養鹿における損耗防除技術の開発、牛の生殖関連細胞のウイルス感受性など幅広いものです。現在は、放牧衛生と牛・豚の下痢・肺炎などの慢性・複合感染症に関する研究を実施しており、最近では放牧衛生検査に利用可能な携帯型近赤外装置による貧血検査法の開発や、牛の肺炎を起こす *Mannheimia haemolytica* の血清型や薬剤耐性の解析、豚の増殖性腸炎の発症機序についての成果を挙げて、東北

6県の家畜保健衛生所を中心とした支所での会議や研修で普及に努めてきたところです。

一方、国立の試験研究機関の多くが独立行政法人に移行した平成13年以降、動衛研が属する農研機構では、業務運営の効率化を達成するため、運営費交付金の定率削減がなされるとともに、政府の骨太方針2004に沿って、全ての小規模研究拠点の見直しが行われました。その結果、東北地域の特色であった放牧を利用した肉牛生産や寒冷地施設型畜産における衛生問題についての試験研究は、全国共通の技術的課題となっていることから、東北支所の研究機能をつくば本所に移転・統合し、本所に強化する研究体制に引き継ぎ、より迅速に研究成果を生み出し、東北地域を含めて全国的に成果の普及を一層推進することになりました。

支所移転については、地元の七戸町と青森県をはじめ東北各県に説明申し上げ、時代の流れと考えざるを得ないご理解いただいております。これまで東北支所が担ってきた東北地域における病性鑑定、技術相談、研修の受け入れや東北家畜衛生協議会をはじめとする諸会議等につきましては、本所が代替し継続することを原則に支障が生じることのないようにいたします。

先達の大きな成果のどれをとっても七戸町の皆様をはじめ地域の生産者や家畜衛生担当のご理解・ご協力があったことであり、深く感謝申し上げます。また、手前味噌で恐縮ですが、これらの成果を通して地域の畜産に幾ばくか貢献してきたとの自負もあり、移転については残念で、申し訳なく感じます。来年3月末の移転まで七戸において全力で業務を行いますし、また、茨城県つくば市への移転後においてもこれまでと変わることなくご理解・ご協力下さいますようお願いいたします。